

1 指導概要

教 科		科 目		
英語		論理表現Ⅱ	単位数：2単位	
<p>指導目標：基礎単語量や、文法項目を理解し、場面に応じて適切に選択・活用することができる。また、単語だけでなく熟語や、地域に応じた語彙などの細かなニュアンスの差を理解し、文脈における語彙選択の可能性を広げることができる。</p> <p>1. 「話すこと・聞くこと」、「書くこと・読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で自分の思いや考えを適切に伝え、相手の伝えたいことを理解しようとすることができる。</p> <p>2. 言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとする。また、自国の文化とほかの国の文化・言葉を通じて比較しながら学ぶことで、興味関心を養い、自分の価値観や見識を広く高めていくことができる。さらに、効果的に近くの媒体を用いて、調査することができる力を養う。</p> <p>3. 日常的な話題や社会的な話題に関して聞いたり読んだりした内容について、使用する語句や文、やり取りの具体的な進め方が十分に示される状況で、優れている点や改善すべき点を話して伝え合ったり、意見や主張などを適切な理由や根拠とともに伝え合うディベートやディスカッションをする活動。また、やり取りした内容を踏まえて、自分自身の考えなどを整理して発表したり、文章を書いたりする力を養う。</p>				
メディア視聴	あり	60%	教科書	東京書籍 New Favorite English Logic and Expression II
スクーリング	1 単位時間×8回	合格時間数 8 時間以上	学習図書	自校作成の教材資料を使用
レポート	全 6 回	合格枚数 6 枚	副教材	NHK 高校講座
回	高校通信教育講座 (単元・学習内容)	レポート (締切期日)	スクーリング (日程と内容)	
1	Unit1 英語の基本構成・自己体験を語る・書く・インターアクションの基本	第1回 (5/30)	第1回	SVを含む基本構成・意見の伝え方・論述の仕方・プロンプト及び提携表現を利用した簡単な意見作成・陳述・後置修飾について理解し、自己表現をする。
			第2回	図書館・インターネットの使い方・フェイクニュース・審議判定・情報源吟味・ビブリオグラフィ・プレイジャリズム(剽窃)について学び、実際に論を書いてみる。
2	Unit1 資料の探し方・根拠を用いた論述・エッセイライティングの基本	第2回 (6/30)	第3回 ・ 第4回	writingの基本スキル① 形式説明・結論先出論法・見通しを立てたうえでの意見構築を行い、友達にお願いごとをしてみようとする。発表後、意見交換をし、自分の意見の向上を図る。繰り返し練習を行い、ライティングの基本の定着を図る。

3	Unit1 依頼の出し方・結論づくり・過程づくり・まとまりのある話し方・書き方	第3回 (7/30)	第5回	writingの基本スキル② 状況分析・状況描写・助動詞（蓋然性）・論理構成と添削の仕方・接続詞の効果的な使い方を理解し、実践的にライティングにて自己表現をする。
3	Unit1 フォーマル・カジュアルの意識	第4回 (9/30)	第6回	助動詞を用いた依頼分の応用・話し言葉と書き言葉で意識する部分の違い・ジェンダー（女性言葉・男性言葉）を意識した言葉遣いを用いて、会話活動を行い、自己表現活動を行う。
4	Unit 2 ディベート・プレゼンテーション	第5回 (10/30)	第7回	意見を伝える際のプロンプト集・論述・証拠集めの方法・根拠と説得・プレゼンテーション及び発表の作法を理解し、自分の意見を論述しようとする。
5	Unit 2 アカデミックライティング 論述・仮定/推論・比較説明	第6回 最終提出：(11/30) 提出予備日： (1/15)	第8回	接続詞の一覧表・論構成・パラグラフライティングの方法・エッセイと作文の違い・トップダウン/ボトムアップの論法を理解し、自分の論述のブラッシュアップを図る。

2 評価の観点

知識・技能	目的や場面、状況、相手の反応などを踏まえた上で、適切な語彙や表現などを選択して活用するために必要な技能を理解する。
思考・判断・表現	精査した情報を基に自分の考えを形成し、文章や発話によってアウトプットし、目的や場面、状況等に応じて互いの考えを適切に表現しあう。
主体的に学習に取り組む態度	意欲的にレポート作成に取り組み、スクーリングに出席し身近な事象をもとに、英語を用いて伝え合う探究活動をしようとしている。

3 評価の方法

スクーリングへの出席（取り組む姿勢）、レポートの提出（レポートの内容）、試験結果を総合的に判断し、評価する。
--

4 担当者からのメッセージ

論理表現 II では、スクーリングへの出席（取り組む姿勢）、レポートの提出（レポートの内容）、試験結果を総合的に判断し、評価します。基本的なことから応用まですべての英語の基本となる文法事項を確認し、より高度で専門的な英語を実践的に活用する特訓を行います。教科書を読み、各回の範囲を予習し、レポートをできるだけ完成させた上で面接指導にのぞむことを推奨します。また、NHK 高校講座の視聴も基本的な文法理解・表現の理解に役立ちますので、活用してください。
